

横浜市立谷本中学校 平成26年度 学力向上アクションプラン

1 学校の状況と地域の実態

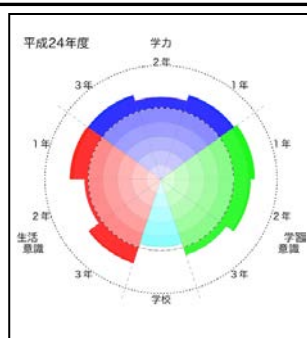
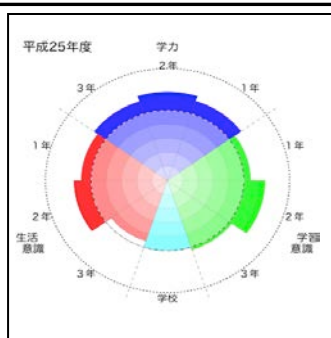
- (1) 学習意欲は高く、1日の勉強時間が1時間以上の生徒は60%強である。3年生では80%近くになり、塾に通う生徒も多く学力・成績向上への関心は高い。
- (2) 学力の差が大きく、基礎学力の確実な習得に向けての取組をどのように設定していくかが課題となっている。夏期休暇に設けている学習相談や試験前の個別学習支援等、内容を充実させていく必要がある。
- (3) 本校に入学する生徒の中には受験失敗の悩みをかかえたり基礎学力が身に付いていないなど、複雑な状況で中学校生活を始める生徒も目立つ。
- (4) 授業中には活発な発言もあるが、人とのコミュニケーションは苦手な面も見られる。周りの意見に流されたり、人のために活動する意識が弱い生徒も多い。

2 今後2年間の方向（中期学校経営方針）

学力向上に関する指導の目標・方針（平成27年度末の姿）

- ・「確かな学力」の定着を図るため、授業時間の確保や学習相談を行い個々に寄り添った支援をします。また、学習習慣の定着のため家庭との連携を図っています。
- ・数学1年TT、2、3年少人数指導、英語2、3年少人数指導を実施し、基礎・基本の確実な定着を図り確かな学力を身に付けられるようにしています。

3 横浜市学力学習状況調査等からの平成25年度の実態把握



(1) 学力・学習・生活意識の概要と要因の分析

学力、学習意識面ではほとんどが市の平均を上回っている。授業内容はほぼ80%の生徒が「わかる・どちらかと言えばわかる」と答え、学習に対する意欲とともに学力が安定して身についていると思われる。学習時間では市平均をどの学年も上回り、特に3年生では進路を見据えて個々の力を伸ばしている。一方、記述問題で誤答が多く、各教科の課題となっている。生活意識については学年の特徴や状況によって差があり、一律で特徴をとらえることは難しいがどの学年

も自己意識の値が低く、日常生活での自己肯定感の弱さがわかる。「将来の夢や目標を持っているか」の質問は市平均を下回っている点も留意すべきである。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：ほぼ市平均を上回り「仮名遣い」等古典知識は高いが、記述表現・敬語表現・文法知識が課題。
- 社会科：ほぼ市平均を上回り知識・理解は高いが、資料活用や社会事象に対する因果関係や関係性についての把握が課題。
- 数学科：全てにおいて市平均を上回っていた。図形や数学的事象・思考等の記述表現が課題。
- 理科：ほぼ市平均を上回り知識は定着しているが、グラフの書き方や事象を説明する記述表現が課題。
- 外国語科：ほぼ市平均を上回り関心も高い。学習を定着させ基本知識を応用した記述・作文が課題。

(3) その他

運動・芸術面を含めて校外で活動している生徒が多く、音楽・芸術面への関心は高い。一方、生活意識の分析では「運動をする」（市平均の下）の数値が低く、「1日の睡眠時間」も少ない傾向にある。豊かな生活を送りながらも、時間にゆとりを持たない状況があるのかもしれない。日常生活の基本となる部分をしっかりと身に付けることが大切だ。

4 平成26年度 目標と具体的方策

平成26年度 目標

言語活動の充実を中心において、知識や技能に加え、学習意欲や主体的な課題解決力など「確かな学力」の定着を目指す授業の工夫をする。

(1) 学校組織としての共通の取組

- **言語活動を充実させる**
本校の合い言葉“素敵にコミュニケーション・・・”を各教科で課題とし、授業内でのグループ学習など言語活動を重視した授業を心掛け、正確に「聞く」「話す」力を身に付け、さらに自分の考えをしっかりと表現できる生徒を育成する。
- **学習保障と学習支援をする**
夏休みの前半3日間、後半3日間の学習相談を実施し、普段の生活ではできない1対1の学習指導や、基礎基本を復習・予習・宿題など生徒の課題や意欲に沿って学習を支援する。また、教育相談を実施し相談内容・生徒理解の充実を図る。
- **読書活動の充実させる**
読書が日常の活動となって読書への関心を高めることにより精神面を充実させる。また、その内容・感想をまとめ、伝えることでより深い「言語能力」の向上を図る。

(2) 学年・教科等としての取組

○ 分かる授業・楽しい授業の確立

国語

- スピーチの相互評価プリントを工夫し、相手の話を注意深く聞き、話題を総合的にとらえる力を育てる。
- 心情の把握、論理の展開など内容の理解と自分の考えを文章で表現する力を充実させる。

社会

- 基本的知識に加えて高度な応用的内容や細かい知識にも踏み込んだ授業を展開する。
- グループワークや調べ学習、発表など多様な学習形態を研究し、授業実践につなげる。

数学

- 応用問題では生徒の多様な解き方を共有しあえる場面を作り、自分の考えを磨き上げる指導をする。
- 他の先生の授業案を参考にし、授業の振り返りを行い個々の授業力を向上させる。

理科

- 「間違えてもいいから自分で答えよう」のよびかけと、何がわからなくて間違えたのかを説明する場面を設定する。
- 考察では自力で思考をする時間を多く設ける。

音楽

- 個別指導を充実させ、苦手意識を持つ生徒に対しての支援をていねいに行う。
- 鑑賞の授業を充実させ、音楽のよさ・感動を文章表現し自己の音楽表現活動に生かすことを目指す。

美術

- 作業工程の明確化、生徒の動線を意識した教室環境づくりを行い、分からない生徒を一人でも減らす。
- 参考資料・作品の展示・展覧会の案内などを積極的にに行い美術に触れる機会を増やす。

技術・家庭

- 生徒間・班での相互評価を取り入れ、生徒同士の振り返り学習にも重点を置き、学習内容をより深める学習形態を取り入れる。
- 日常生活に関連づけた内容で発言を引き出す。

外国語

- 表現活動を多く取り入れ、生徒が自ら英語で、自分の考えや状況を説明できるように支援する。
- ノート等のチェックや音読、会話テストを通して実態をつかみ実態にあった授業を行う。

特別活動

- 望ましい集団活動を通して、心身共に健全な調和のとれた発達と個性の伸長を図る。
- 実践的活動の中で、自主自立の態度を育て、生き方についての自覚、自己を生かす力を養う。

総合的な学習の時間

- 学び方や考え方を身につけ、問題解決や探求的な活動に自主的創造的に取り組む姿勢を育てる。
- 行事を通して主体的に学び、考え、探求することで、人・自然・文化への思いやり・生きる力を育てる。

個別支援学級

- 社会生活に必要な態度と能力の育成を図り、自立の基礎を培う。
- 個別指導計画に基づき、授業や学習集団を工夫し、指導の充実を図る。